

発達障害のある幼児の

## よき理解者・支援者となるために

富山県教育委員会

2020年3月発行

## 幼児への支援は、どうしたらよいのでしょうか…？

子供のよさを  
見つける  
ほめて育てましょう

発達障害の子供は、周りの動きを見て、それに合わせて動くことが苦手です。

そのために、集団場面で注意されることが増えてしまい、「自分是可以るんだ」「がんばるぞー!!」という気持ちが起こらなくなってしまいがちです。

「どうせ、ぼくなんか…」という投げやりな気持ちになることもあるようです。

当たり前のようなことでも、ほめるように心がけましょう。

## Point

## ☆ほめるプロに

うまくできた時は、すかさずほめましょう。  
しかるよりも、ほめることを増やしましょう。

## ☆プライドを大切に

ほめるときはみんなの前で。本人の自信につながります。  
やめてほしい行動を伝えるときは、集団から離れて1対1で。

## ☆よさを知る

その子のよさや得意分野を手がかりにしましょう。



一人で悩まないで  
組織で対応する  
チームワークが大切

## Point

- ・園内の「特別支援教育コーディネーター」や管理職を中心にみんなで相談し、それぞれの役割を分担するなど園内の支援体制を整備することが大切です。
- ・必要に応じて、地域の特別支援学校や関係機関の支援を得ましょう。

文部科学省が平成24年に実施した調査によると、小・中学校の通常の学級には、「知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難がある児童生徒」が6.5%の割合で在籍していると推測されています。

# 支援の実際

## 一人一人の特性に応じた支援を行う

支援の必要な子供の特徴は、一人一人異なっており、そのため支援の内容や方法も違ってきます。どんなときに支援が必要なのか、子供の行動の特徴をよく捉え、できることやよいところを生かしながら支援に取り組むことが大切です。



### パニックになって暴れる子供

#### ☆否定語でなく肯定語で伝える

「走っちゃだめ！」ではなく「廊下は歩きます」と伝えると、子供は理解しやすく、自分がすべき行動が分かります。

#### ☆クールダウンの場所を

混乱したときに、心を落ち着かせる場所を用意しておきましょう。

#### ☆落ち着くグッズを

安心のお守りになるものを用意しておきましょう。

#### ☆原因を知る

どんなきっかけで混乱しているのか、原因を見極め、取り除いていきましょう。

### 切り替えが苦手な子供

#### ☆1日の流れを伝える

言葉に加えて写真や絵カードなどを見せて、1日の見通しをもたせましょう。予定の変更があるときは、早めに伝えましょう。

#### ☆タイマーや音楽で伝える

決められた時間にタイマーや音楽が鳴るようにしておきましょう。



### 集団に入るのが難しい子供

#### ☆小さい集団から

少人数の活動から集団に入れるように練習しましょう。

#### ☆分かりやすいゲーム

ルールが簡単なゲームから始めましょう。

#### ☆気の合う子供と

頼りになる子供や気の合う子供と同じグループにしましょう。

#### ☆大人がつなぐ

大人も一緒に活動に参加し、具体的な場面で仲間との遊び方や声のかけ方などを個別に教えましょう。

### 離席が多く、落ち着かない子供

#### ☆メリハリを付ける

思い切り身体を動かす時間と、静かに座って学習する時間など、変化をもたせましょう。

#### ☆あきさせない工夫

いくつかの遊びを組み合わせることで変化をもたせ、活動を工夫しましょう。

#### ☆ルールを示す

静かに聞く、座って待つ時間の決まり（手はおひざなど）を決め、少しでもできたらほめましょう。



### 生活全般で不器用な子供

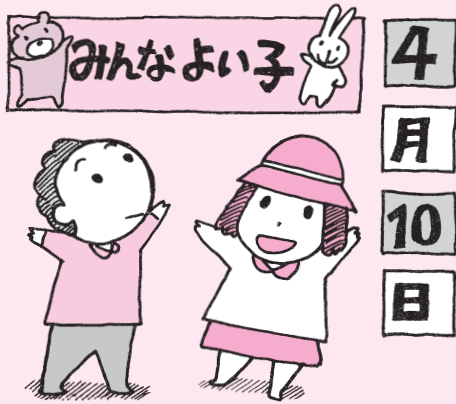
#### ☆スモールステップで教える

一人でできるまでの手順を工夫し、ひとつずつ教えましょう。初めは部分的に介助しながら、達成感をもたせるようにしましょう。

#### ☆園と家庭で練習

日常生活の動作（ひも結び、ボタンかけなど）などは幼稚園・保育所と家庭が同じ方法で教えましょう。あせらずに取り組ませ、待つ姿勢が大切です。

## 環境を工夫する



周りの刺激の影響を受けやすいために落ち着かない子供がいます。視覚、聴覚、触覚など、感覚に過敏性がある子供がいます。周りの人から理解されにくいこだわりのある子供がいます。どの子供も安心して過ごせるように、園の環境を工夫しましょう。

### ☆シンプルな教室

装飾が多すぎたり、課題と関係ない掲示が多かったりすると、集中できない場合があります。

### ☆音量の調節

たくさんの子供が集まってざわざわしていると、それだけで部屋に入れない子供がいます。音楽をかけるときも音量などに注意しましょう。

### ☆柔軟な対応

全員が同じようにきちんと帽子をかぶり、上着を着て出かけることはよいことかもしれませんが、でも、感覚過敏で、帽子が重苦しく上着が暑くて我慢できない子供の辛さなども理解しましょう。

### ☆目で見て分かる表示

言葉の指示だけでは分かりにくい子供には、写真や絵カード、マークやサインなどを使って伝える工夫をしましょう。

洗面所やトイレでは、並ぶ場所に足跡などの印を付けるなど工夫をしましょう。

### ☆手本を示す

「〇〇さんの後ろに並ぼう」等行動のモデルになる子供とペアにするなどの工夫をしましょう。

### ☆安全な環境

けんかをしたり、怒ったりすることがあります。周りに危険な物がないよう、常に整理、整頓しておきましょう。



## 集団を育てる

### あたたかい集団



支援を進めていくと特別扱いにとらえられることがあるかもしれませんが、子供一人一人を大切にしている姿勢を見せ、どの子供も困ったときは助けてもらえるという安心感のあるクラスを目指しましょう。

### ☆周囲の子供たちに伝える

パニックになったときの力や声は、普通の何倍にもなり周りの子供がびっくりします。保育者が「みんな、落ち着くまで待ってあげようね」と声をかけるなど、周りの子供を安心させましょう。

### ☆みんなが主役になる集団づくり

日頃から互いのよさを認め合える集団作りをしましょう。ほめ上手な先生のクラスは、子供たちも穏やかです。

## 保護者と共に 考える 「連携」が大切

子供の一番の理解者・支援者は保護者です。  
子供の成長を心配している保護者、問題行動にやきもきしている保護者など、保護者の気持ちや苦勞をくみ取り、共感できる支援者になりましょう。  
そして共に歩む気持ちをもつことが大切です。

### ☆信頼関係づくり

日頃から子供のよさを見つけ、伝えるようにしましょう。  
保護者が適切な関わり方をしているときは、よさを認め、ねぎらいの言葉をかけましょう。

### ☆連絡帳を活用する

連絡帳には「今、取り組んでいることやがんばっていること」を書きましょう。  
園での様子を伝えるときは、「どんなとき、どのようなきっかけで、どんな行動があったか」をていねいに書き、園での対応によって改善されたことも具体的に伝えましょう。  
明日の予定も忘れず伝えましょう。

### ☆目標をもち、計画を立てる

どのような力を付けていきたいかを保護者と話し合い、目標をもって計画を立てて取り組みましょう。  
保護者の願い等を聞きながら、一緒に考えましょう。

## みんなで支える 支援をつなぐ

### ☆支援をつなぐ

園での良い支援を小学校につなぎましょう。

### ☆行動と支援の記録

どのような場面が苦手か、どのような支援が効果的かなどを記録しておきましょう。

### ☆専門機関と連携

必要に応じて医療機関や専門機関と連携しましょう。

### 園内支援体制を整えましょう

幼稚園では、校内委員会（特別な教育的支援を要する幼児について検討する委員会）を設置したり、特別支援教育コーディネーター（関係者との連絡調整や保護者の窓口となる教職員）を指名したりして、園内の支援体制を整えましょう。

保育所でも、みんなで検討したり、窓口となる担当を決めるなど、支援体制の整備を工夫しましょう。

## 外部支援機関

### 地域の特別支援学校

#### 〈新川地区〉

- ・いかわ総合支援学校

#### 〈富山地区〉

- ・しらとり支援学校
- ・富山総合支援学校
- ・高志支援学校
- ・富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

#### 〈高岡地区〉

- ・高岡支援学校
- ・こまどり支援学校

#### 〈砺波地区〉

- ・となみ総合支援学校
- ・となみ東支援学校

○富山県総合教育センター  
教育相談部特別支援教育担当  
TEL 076-444-6351

○富山児童相談所  
TEL 076-423-4000

○高岡児童相談所  
TEL 0766-21-2124

○高岡市きずな子ども発達支援センター  
TEL 0766-21-3615

○魚津市立つくし学園  
TEL 0765-24-3240

○富山市恵光学園  
TEL 076-431-5828

○砺波広域圏わらび学園  
TEL 0763-22-6055

幼稚園や保育所からの相談、保護者からの相談を受け付けています。